

(様式3)

令和5年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 実績報告書

市町村名	安来市	公民館等の名称	赤江交流センター
------	-----	---------	----------

事業の目的	I・Uターンし、この安来市赤江地区で農業を営んでいる凡そ20代から40代の世代の人と地域住民との交流の場づくり
事業の内容	<p>○ターゲットとする世代 20代から40代の農業を営んでいる人及び従来からの農業経営者等の地域住民</p> <p>○地域の状況やターゲットとした理由 島根県の農業従事者の高齢化に伴い、安来市では施策のひとつとして他都道府県から広く安来市への移住を進めており、赤江地区にも多くのI・Uターン者が来ている。こうした状況の中で、新しく加わったI・Uターン者と従来から当地区で農業経営等をしている地域住民との交流の場を構築したい。</p> <p>○事業の内容(日時、場所、参加者数、具体的な活動)を具体的にご記載ください。 計画の段階では、昨年度実施した「男志塾」(男性を中心に調理し、意見交換等行う活動)を中心に広く、I・Uターン者の参加を呼びかける事業を計画していた。しかし、I・Uターン者に特化した事業に申請したところ採択されたため、下記のような地域人材を活用した、I・Uターン者を含む世代間交流事業を計画実施した。</p> <p>(1)『ちょこっと喫茶』の立ち上げとその運営 年間を通じて、交流センターで住民の皆さんが交流できる場づくりを立ち上げる計画を立てたところ、60代の同級生の4名の皆さんが、この事業に賛同いただき、月一回定期的に開店しレコードを聞きながら飲み物を飲み、会話を楽しむスタイルで実施することとした。 そのためには、開店を知らせる手段が必要ということで、情報科学高校の皆さん(6名)の協力を得て、開店を知らせる『幟』と『エプロン』のデザインを依頼することとした。情報高校の生徒の皆さんと5月8日(月)・22日(月)に高校で主旨説明やデザインの内容等、話し合いを行い、7月10日(月)、両者でデザインを決定し、業者に依頼した。 7月23日(日)、当交流センター事業の『あかえマルシェ』に共催する形で、『ちょこっと喫茶』をプレオープンした。9月1日(金)のオープンを目指して、会場として使用する交流センターの一室を、4名のスタッフの皆さんが整備した。 その後の開店日と凡その来客数は次のとおり。 ①9月1日(金) ②10月2日(月)③11月1日(水)④11月12日(日)『赤江文化祭』に共催、⑤12月1日(金)⑥1月9日(火)⑦2月1日(木)⑧3月1日(金) 以上、プレオープン、文化祭を除き凡そ毎回20名の来店</p> <p>(2)地域人材活用事業 地域で様々な得意技をお持ちの方を講師として活用しながら、I・Uターン者にも広く呼びかけながら下記の事業を行った。</p> <p>〈1〉陶芸教室 実施日 8月19日(土)、会場 交流センター、参加者 13名(I・Uターン者が1家族で参加) 陶芸用粘土を用意していただき、それぞれ2作品作成した。赤江文化祭に展示した。</p> <p>〈2〉ポン酢とお手軽キムチづくり 実施日 1月14日(日)、会場 交流センター、参加者 14名 地元で「加工クラブ」として、農産加工品づくりをされている皆さんを講師とし、ユズを使った加工品づくりやキムチづくりを行った。 クラブの方が、時間内で講座が出来るよう工夫して事前準備をしてお</p>



	<p>られたこともあり、スムーズに講座ができた。その後の懇親会では、用意いただいた漬物やユズの種で作る化粧水の話など、色々な話を聞く機会ともなった。</p> <p>〈3〉ソバ打ち体験 実施日 2月3日(土)、会場 交流センター、参加者 15名(2名のI・Uターン者の参加) 地元のお店で実際にソバ打ちをされている職人を講師に、男性を中心に行った。参加者は、何度か作ったことのある人や初めてという方もいたが、個別に丁寧な指導を受け、皆さんソバを打つことができた。その後、講師の方が用意された薬味やつゆで作ったソバを試食し会食した。</p> <p>〈4〉パンづくり体験 実施日 2月17日(土)、会場 交流センター、参加者 14名(3名のI・Uターン者の参加) 地元でパン教室の講師をしておられる方からご指導を受けた。女性を中心に募集したが、定員以上の希望があり、皆さんに体験していただき会食した。</p>
<p>成果と課題 今後の見通し</p>	<p>○期待する成果・効果 安来市の交流センターの機能として、地域の皆さんの交流の場として活用することがあげられる。この「公民館次世代参画支援事業」を契機として、赤江地区へのI・Uターン者と地元住民との交流の場を創ることに努めた。</p> <p>今年度、『ちょこっと喫茶』という交流の場づくりに取り組んできた。4名の同窓生の皆さんにスタッフとして取り組んでいただいたお陰で、毎回、多くの皆さんにお越しいただくことができた。特にリーダー的に運営いただいている方が、音楽関係のお仕事をされていたこともあり、皆さんに懐かしいレコードを聞きながら、楽しい時間を過ごせたという感想をいただいている。当初想像していたより毎回の参加者が多く、途中から広い部屋で開いた。</p> <p>地域人材活用事業では、新型コロナの影響で何年も調理を伴う事業をできていなかったが、こうした事業は希望の高いことを改めて感じた。参加された皆さんから、「来年も是非、やってほしい」との声を聞いている。特に、地元の方から指導を受け、実習し、その後、皆さんで語り合える場の大切さを再確認できた。</p> <p>○計画書に記載された「期待する成果・効果」をふり返って見られた成果や課題、次年度以降の見通しなどをご記載ください。</p> <p>当初、I・Uターン者の皆さんと地元住民との交流の場づくりを中心に実施する計画であったが、現実には当地区で農業経営に取り組んでおられるため、なかなか、当交流センターが企画した事業への積極的な参加も難しいことを改めて感じさせられた。しかしながら、参加されたI・Uターン者の皆さんからは、「こういう機会がないと地元の方と話す機会もない」との話を聞いている。ひとつの事例であるが、当交流センターで企画した事業に参加された男性が、地元の同世代の方との出会いで、その後も一緒にマラソン大会に参加するなど交流が続いていると聞いている。作って会食することで横や縦の繋がりを持てる企画を立てていきたい。</p> <p>Iターン者が定住している自治会内では交流の場が設定されているようだが、周辺の自治会又は地域での交流の場がないという現状を見ると、共に赤江地区の事を考えていけるような組織づくりを構築するための手段として活用したい。また、『ちょこっと喫茶』では、スタッフ4名の方が、主体的に運営したいとの希望から11月からは、この体制で開店している。今後は、交流センターとしては、側面からサポートしていくこととしている。より地元にも根ざした交流センターとして望ましい方向性だと考える。</p> <p>最後に、乏しい交流センターの予算の中では、今回この事業からの助成金を得ることで、新たな事業に取り組むことができた。継続的な事業が可能な体制を作っていたきたい。</p>

